

地域を守る

岡山県消防操法大会に  
山田分団が出場

迅速・的確な消防技術の向上を図ることを目的に7月に行われる県消防操法大会。小型ポンプ操法の部に、市から消防団山田分団が出場します。大会では、小型ポンプの取り扱いや操作方法、放水までの正しい手順などが求められます。分団員は、地域の防災力を高めるために、夜間や早朝に練習に励んでいます。



地域の安全を守るために早朝から練習に励む



訓練を通して操作手順などを身に付ける



火点に向かって放水



市消防団山田分団長  
金澤和夫さん



今年度は、山田分団が県消防操法大会へ出場します。

出場に当たっては、地域の皆さんや消防関係者の温かい応援をいただきながら、練習に励んでいます。練習を通じて分団の団結力も高まっています。

家族や地域の皆さんを守るために、仕事と両立して団活動を行っています。活動を通じて、幅広い年代の人とつながることも魅力です。私たちと一緒に地域の防災リーダーとして、安全を守る活動に参加してみませんか。

市民の命と財産を守る  
市消防本部発足 60 周年



記念碑を囲む荒木毅消防団長、高見章郎元消防団長、大月亮前消防団長、片岡市長、中山消防長（写真左から）

5月17日、市消防本部発足60周年記念式典を同本部で開催しました。消防職員のほか消防団幹部や歴代の消防長らが出席。参加した職員らは、あらためて市民の命や財産などを守ることを誓いました。同本部は、昭和37年6月1日に発足。現在、115人の職員が所属しています。

式典では、60年を振り返った動画の上映や記念碑の除幕を実施。記念碑には、「迅」（はやぶさ）の文字が刻まれています。この文字は、ハヤブサのように常に情報を収集しつつ全体を俯瞰し、最速スピードで活動するという同本部の理念が込められています。式典後には、ドローンやはしご車を使用した救助訓練も行われました。

問い合わせ 市消防本部消防総務課（☎0866-92-8342）



高所に取り残された負傷者を救助する訓練

もしもに備えて  
水防訓練を実施

災害に  
備える

本格的な出水期を前に防災の技術・知識を高めるため、6月5日に水防訓練がそうじゃ水辺の楽校で行われました。

訓練には、消防団員や市職員約220人が参加しました。救助用ボートの組み立てやボートによる避難誘導、河川などに転落した人の救出、可搬型ポンプを使用した排水、水の流入を防ぐための土のう作り・積み上げといった訓練を実施。消防職員の指導のもと、緊急時の対応を身に付けようと真剣に取り組んでいました。

問い合わせ 危機管理室（☎0866-92-8599）



土のうを崩れないよう積み上げる



落水者に声をかけ、浮力確保に効果があるペットボトルを投げ入れる



指導を受けながら救助用ボートを素早く組み立てる